



第14回身近な水環境の全国一斉調査結果概要

発行日 2017年12月2日
 編集 全国水環境マップ実行委員会事務局
 発行 全国水環境マップ実行委員会
 発行所 全国水環境マップ実行委員会事務局
 問合せ先 全国水環境マップ実行委員会事務局
 みずとみどり研究会気付（申込・問合せ）
 〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202
 みずとみどり研究会気付
 TEL/FAX：042-327-3169
 E-mail：mizutomidoriken@ybb.ne.jp
 URL：http://www.japan-mizumap.org
 発行部数 6,000部



本調査は公益財団法人河川財団の河川基金の助成を受けて実施しています。

第14回 2017

身近な水環境の 全国一斉調査

●●笑顔でつなぐゆたかな水辺●●

第14回 調査結果概要

2017

目次

I 調査の背景	P.1
II 調査の実施手法	P.2
III 調査結果の概要	P.3
全国一斉調査諸データの推移	P.4
2017 全国水環境マップ 第14回 身近な水環境の全国一斉調査結果	P.5
2004 全国水環境マップ 第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果	P.6
IV 各ブロックでの調査結果	P.7
北海道地方	P.7
東北地方	P.8
北陸地方	P.9
関東地方	P.10
中部地方	P.11
近畿地方	P.12
中国地方	P.13
四国地方	P.14
九州・沖縄地方	P.15
V 一斉調査結果の活用事例紹介	P.16
VI 継続調査参加団体	P.19
VII 全国水環境マップ実行委員会名簿	P.20
VIII 身近な水環境を調べよう！第15回「身近な水環境の全国一斉調査」参加のお誘い	P.21
第15回 身近な水環境の全国一斉調査 参加申し込み用紙	P.22

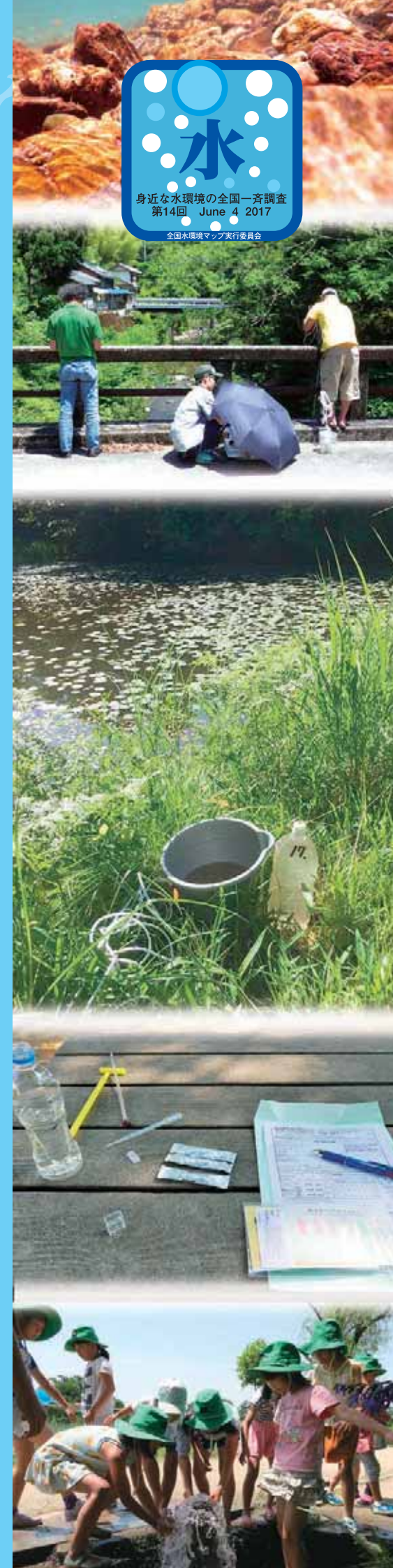
※「身近な水環境の全国一斉調査」は、毎年6月に統一調査日を設け、2004年から市民団体と河川管理者が連携して、全国の河川や湖沼など身近な水環境の水質を調査しています。
 本誌は、その結果をマップとしてまとめ、参加者のみなさんのご意見も掲載しました。

調査器材は(株)共立理化学研究所から提供を受けています。

全国水環境マップ実行委員会

後援 国土交通省 環境省

印刷 エキノックス



I 調査の背景

近年、河川や水辺など身近な水環境の保全や修復に関する市民の意識が高まっています。市民や学校の子どもたちによる身近な川の一斉調査は1980年代の半ばから、多摩川・荒川の流域や霞ヶ浦・琵琶湖の流域など全国各地で行われてきました。しかし、調査の方法や項目などは必ずしも統一されておらず、水質の測定精度も十分に保証されていません。このような多くの市民調査の結果を有効に利用するためには統一的な調査マニュアルを作成し、測定精度の管理システムと全国各地の結果を比較できるデータベースを確立することが重要です。

多くの市民や学校の子どもたちが統一的な調査マニュアルにもとづき、身近な水環境を全国一斉で調査し、その結果をわかりやすいマップで表現することにより、全国の状況が一目でわかり、身の回りの環境に関する市民の理解と関心がさらに深まることが期待されます。

【身近な水環境の全国一斉調査のはじまりと10年間のまとめが一冊の本になりました。】

調査を実施するようになった社会的背景からどのようにして全国一斉調査がはじまったのか。そして、どのように全国に広まったのか。これまでのデータのまとめも含めて身近な水環境の全国一斉調査が一冊の本になりました。身近な水環境の全国一斉調査10年の歩みがわかる「見る 知る 調べる水」((有)全国環境研究会誌事務局 発行：2015年)は全国水環境マップ実行委員会事務局から定価1,500円(税込)送料別で販売中です。

「身近な水環境の全国一斉調査」は2004年6月に開始され、14年間で延べ99,751人を超える市民や学校の子どもたちが参加し、全国の調査した水辺の延べ数はおよそ75,234地点です。今後もこの調査を継続することで、水環境の保全に関する市民の意識が高まり、さらに多くの地点で調査が実施されることを期待しています。

目的と意義 ～自分たちで調べて、環境保全につなげよう～

1. 身近な水環境を簡単な方法を用い自ら調査することにより、その実態を知ることができる。
2. 統一的なマニュアルに基づき調査を行うことにより、調査結果を相互に比較する際の精度が向上する。
3. 身近な水環境の調査結果をすぐに知ることができる(行政による水質調査結果の公表はおおよそ1年後である)。また、全国の結果も速報値として数か月後に知ることができる。
4. 河川などの流域で、多くの人たちが調査に参加することにより、面的につながりのある結果が得られる。
5. 同一条件で調査した身近な水環境と他の地点の結果を比較することにより、身近な水環境の状態を評価できる。
6. 身近な水環境を流域、さらに広域の環境へ結びつけ、水環境の保全を考えるきっかけとなる。
7. 水の汚れの原因を調べ、考えるきっかけとなる。
8. 汚れの原因が明らかになれば、水環境を保全・修復するために、身近にできる実践活動に結びつけることができる。
9. 調査に参加した多くの人たちと連携の意識をもつことができる。
10. 子どもたちが調査に参加することにより、100年の眼で将来に活動を引き継ぐことができる。



II 調査の実施手法

調査の概要

調査日：2017年6月4日(日)を中心に実施
調査者：『全国水環境マップ実行委員会(委員長：小倉紀雄・東京農工大名誉教授)』のもと、河川の水質に関心のある市民団体や学校などが参加。
調査内容・方法：調査マニュアルに基づき、気温、水温のほか、バックテストでCODを測定。

調査項目

●気温・水温・試水水温

一斉調査の調査票には、現地の気温・水温・試水水温と3種類の記入欄があります。現地の気温と水温を記入することで、同一日に行なった各地の気温と水温の分布を全国規模で把握することが出来ます。また、バックテストでCODを測定するためには試水水温が重要な要素であり、試水水温を測定することでバックテストの反応時間を把握して、より正確な測定を実施することができます。

●COD(化学的酸素要求量)

COD(Chemical Oxygen Demandの略称)は試水中にどのくらい酸化される物質、主として有機物があるかを示すもので、水中の有機物量の目安となります。河川水の一般的なCODの値は、きれいな水で1-2mgO/L程度ですが、水が汚れるにつれて値が大きくなります。今回の調査も同一のロット番号(製造番号)のバックテストを用いて、同一試料を3回測定し、その中央値を採用することでより正確な測定値を得ることができます。

※バックテストは、株式会社共立理化学研究所の登録商標です。

調査の手法

●採水

- ①雨天や増水などによる調査の中止も考慮し、これまでに調査継続してきた地点や新たに調査してみたい地点を決定します。調査地点を調査票に記入します。
- ②より正確なデータ測定のため、水質の時間変化を考慮し採水時間は午前中に行います。
- ③試水を入れる容器は予め良く洗って乾かし、採水地点名・記号・採水日時を明記しておきます。採水器具や試水を入れる容器は採水を行う川の水で十分に共洗いします。
- ④浅く流れが穏やかな川では、川に入り川の中央で上流に向かって採水し、深い川や流れの速い川では、橋などの上からロープをつけたバケツを下ろし採水します。舞い上げられたゴミなどが混入しないよう十分注意して行います。
- ⑤調査月日・調査時刻・天気とともに、採水地点の気温と採水した試水の水温を測定し調査票に記入します。

●CODの測定

- ①試水の水温を測定し反応時間を決定します。
- ②添付の操作手順書に従い測定します。
- ③反応時間終了後ただちに標準色と比べ測定値を調査票に記入します。
- ④同じ試水で3回測定します。



全国への広がり と 継続の難しさ

毎年の参加団体数や調査地点数は第2回以降、数字の上では大きな変化はありませんが、新規に参加をしている市民団体や企業、大学などがあり、現在では延べ4,000団体以上が本調査へのエントリーをしています。本調査の広がりにはさまざまな方のご協力もあり声掛けを行っていただきひろがりをみせていますが、特に市民活動をされている方の高齢化により調査を断念される、地点数を減らすといったコメントもいただいています。一方で今年は大学関係者で全国各地の調査地点の少ないところを約1,400地点実施していただきました。しかし、今後の継続については課題としています。

また、今年は調査中に怪我をされたとの連絡を2件いただきました。水辺での活動や自宅から現場に行くまでの行程につきまして、十分安全にご留意くださいますようお願いいたします。

全国統一日

調 査 日 2017年6月4日(日)
参加団体数 411団体(個人参加含む)
調査地点数 2,418地点

調査総数(全国)

期 間 2017年5月12日～7月13日まで
参加団体数 758団体[参考:第1回 531団体、第2回 1,000団体、第3回 944団体、第4回 917団体、第5回 997団体、第6回 1,011団体、第7回 913団体、第8回 885団体、第9回 926団体、第10回 865団体、第11回 792団体、第12回 771団体、第13回 750団体]

地点総数 6,124地点[参考:第1回 2,545地点、第2回 5,018地点、第3回 4,923地点、第4回 5,473地点、第5回 6,241地点、第6回 5,683地点、第7回 5,909地点、第8回 5,653地点、第9回 5,581地点、第10回 5,421地点、第11回 5,544地点、第12回 5,842地点、第13回 5,270地点]

※8月に実施した調査結果を送っていただいた団体もありますが、これらは参考データとさせていただきます。

調査地点(海外)

インドネシア 2地点

調査のまとめ

14回の参加者延べ人数が99,751人となりました。来年には10万人に達することが期待され、本場に多くの皆さまに参加していただいたのだと感じています。

今年は758団体により6,124地点が調査されました。継続されている参加者の皆さまに加え、近年では全国各地にある企業関係者の参加や大学関係者によって本調査が活発に行われています。

水質調査の結果は、0～3mg/L未満の地点が31%、3～6mg/L未満の地点が38%、6mg/L以上の地点が31%という結果になりました。また、近年では「定点調査地点の水がない」と調査票への記述があり、今年も約60地点報告がありました。このような情報も河川水量の変化の記録として貴重なデータとなっています。



全国一斉調査諸データの推移

●年別 参加団体及び調査地点数集計結果

作成: 全国水環境マップ実行委員会

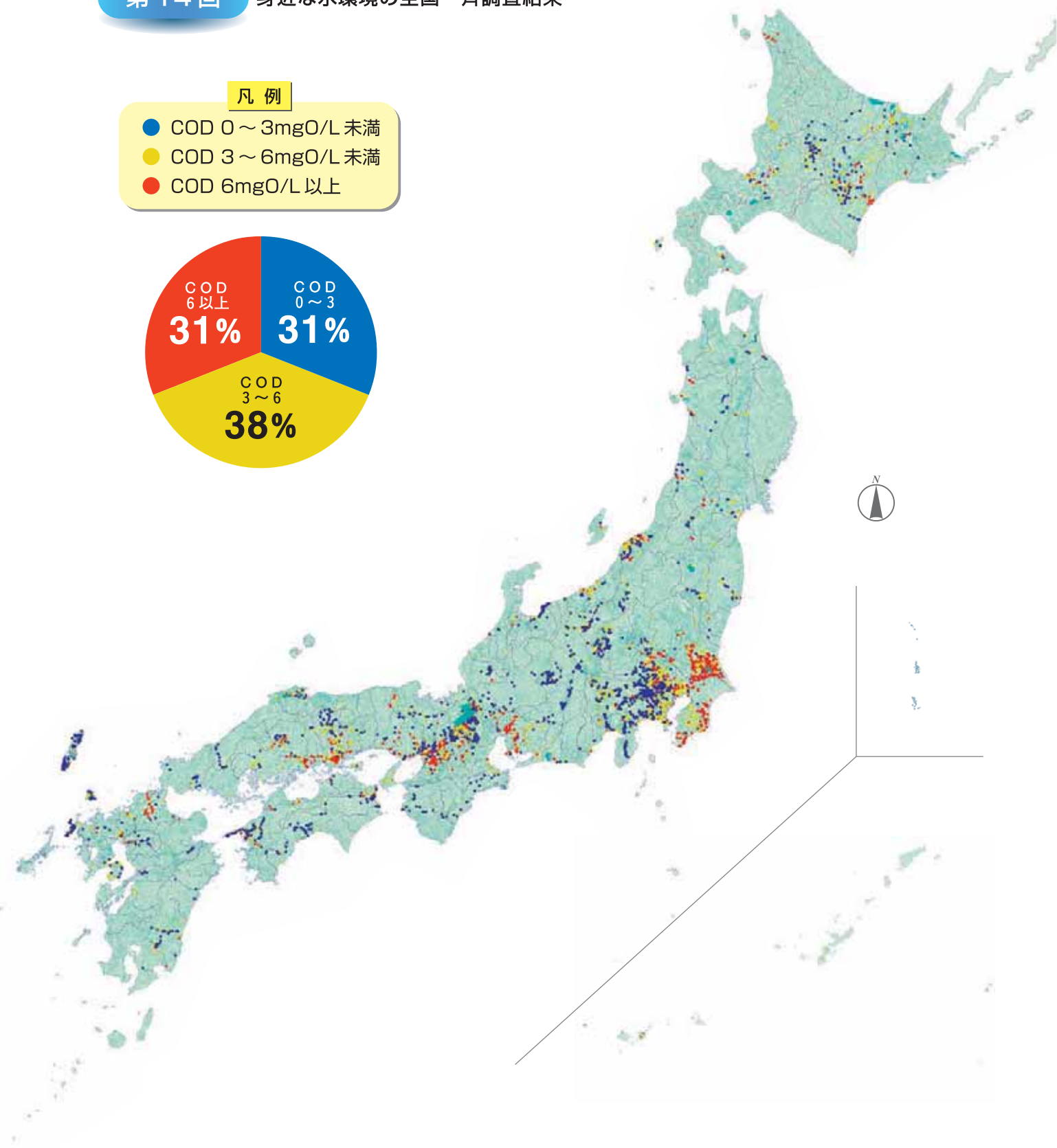
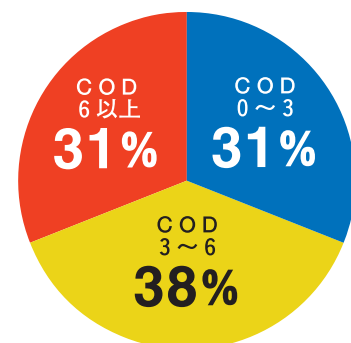
都道府県名		2004 年		2005 年		2006 年		2007 年		2008 年		2009 年		2010 年		2011 年		2012 年		2013 年		2014 年		2015 年		2016 年		2017 年	
		団体	地点	団体	地点	団体	地点	団体	地点	団体	地点	団体	地点	団体	地点	団体	地点	団体	地点	団体	地点	団体	地点	団体	地点	団体	地点	団体	地点
1	北海道	7	26	17	48	20	112	38	179	48	273	41	184	35	264	33	158	35	202	28	139	29	131	24	131	25	131	36	435
2	青森県	11	35	14	35	11	24	13	41	13	30	6	19	7	31	8	31	9	22	5	15	5	16	6	19	5	17	5	19
3	岩手県	8	24	21	35	12	30	13	36	9	41	12	24	11	76	12	49	7	18	6	16	7	23	4	12	2	6	3	13
4	宮城県	5	58	11	95	17	122	8	96	7	92	13	110	7	70	7	30	10	43	9	36	6	27	6	25	6	29	6	30
5	秋田県	2	5	9	27	9	30	10	44	16	50	6	42	5	24	4	11	4	13	3	8	2	6	2	7	2	5	5	30
6	山形県	105	271	112	275	80	211	28	55	60	162	21	50	23	50	2	51	2	51	2	53	3	54	2	52	2	52	2	52
7	福島県	1	3	4	4	2	3	11	38	12	46	6	38	4	87	5	48	6	87	6	42	6	42	7	78	8	48	10	69
8	茨城県	46	235	43	303	38	295	30	295	27	283	34	293	30	278	30	297	34	293	43	320	41	295	43	305	40	286	37	285
9	栃木県	2	4	2	4	9	27	12	41	6	25	6	16	4	9	3	5	6	15	4	6	4	11	5	10	6	11	7	13
10	群馬県	2	2	10	39	9	36	8	23	6	48	9	54	6	51	5	46	5	69	5	44	10	121	9	76	9	81	10	114
11	埼玉県	47	252	94	444	87	438	46	450	110	603	79	470	75	539	66	454	70	477	61	450	61	468	63	486	64	399	63	441
12	千葉県	4	16	13	40	40	114	17	98	16	97	17	82	19	79	15	66	18	85	18	159	18	133	18	111	16	221	19	186
13	東京都	87	373	116	546	112	521	120	543	113	640	111	648	116	723	94	599	111	630	105	689	109	651	106	681	100	608	106	634
14	神奈川県	19	72	29	193	39	220	41	256	23	236	28	230	35	266	30	277	36	298	38	321	37	378	39	374	37	385	39	470
15	新潟県	5	85	26	190	34	224	30	340	59	412	54	346	54	417	47	335	27	367	24	298	26	317	28	318	25	269	23	210
16	富山県	0	0	7	15	5	9	11	36	8	28	7	27	7	26	7	28	7	24	5	22	4	15	4	12	6	15	7	38
17	石川県	2	13	12	48	6	16	7	19	5	12	7	15	5	13	5	13	5	12	3	8	2	7	2	7	6	12	2	9
18	福井県	6	20	3	41	5	46	3	43	4	52	7	61	4	50	5	49	2	45	4	50	3	47	4	46	3	43	7	48
19	山梨県	49	213	70	250	41	161	36	160	36	147	42	163	41	163	43	194	41	162	40	169	39	171	40	208	39	196	34	225
20	長野県	4	11	19	68	8	64	10	53	14	97	26	130	19	116	26	196	25	208	28	222	23	289	25	380	22	303	29	364
21	岐阜県	5	23	9	29	9	31	9	36	16	55	18	71	10	33	11	26	14	35	15	35	14	40	15	101	16	42	18	45
22	静岡県	24	106	24	93	24	103	17	66	12	196	10	47	8	44	10	34	9	30	10	54	10	25	10	34	12	27	11	119
23	愛知県	22	66	35	142	31	115	27	70	38	89	54	164	33	110	22	78	26	114	25	114	23	127	20	118	26	132	22	114
24	三重県	2	55	11	79	13	82	11	101	8	97	16	121	15	106	9	47	9	44	8	39	6	17	9	33	10	48	11	37
25	滋賀県	4	114	54	473	63	605	86	739	87	773	114	709	110	760	98	721	116	646	103	594	96	588	93	600	87	547	83	514
26	京都府	4	40	7	55	9	49	7	54	6	101	21	108	18	111	18	119	19	104	15	71	15	104	12	60	11	54	11	80
27	大阪府	14	81	14	91	17	124	20	157	15	154	30	236	53	338	55	301	64	280	43	229	37	201	28	213	24	188	28	202
28	兵庫県	2	13	19	65	23	84	22	82	17	78	32	98	33	129	35	150	41	147	37	125	37	147	34	136	33	136	30	136
29	奈良県	2	7	13	26	7	46	6	31	9	31	23	56	12	42	16	55	18	56	15	42	14	44	13	31	10	22	11	24
30	和歌山県	0	0	5	20	2	6	5	13	9	27	7	14	12	28	6	22	14	48	8	22	4	22	4	19	5	14	3	34
31	鳥取県	3	8	4	11	2	4	4	6	4	10	3	4	1	2	2	4	2	4	2	5	2	5	3	21	2	3	2	6
32	島根県	1	2	3	6	4	12	1	2	2	10	5	20	3	13	2	11	3	15	7	16	8	28	4	81	3	31	4	31
33	岡山県	1	20	12	143	16	164	15	176	12	176	17	183	17	199	12	195	25	238	13	217	12	196	12	275	10	249	14	292
34	広島県	1	17	4	45	9	91	7	80	7	83	5	76	5	73	3	18	3	43	5	54	5	47	7	79	9	62	10	83
35	山口県	5	17	6	21	5	18	2	27	7	99	4	34	3	16	3	17	6	23	6	25	5	21	3	18	4	17	8	23
36	徳島県	8	74	16	72	12	29	24	147	23	95	13	54	9	38	103	376	38	142	36	144	31	158	30	140	23	85	22	103
37	香川県	1	2	3	9	5	12	8	18	5	17	6	19	5	16	4	12	5	12	4	13	3	12	3	12	2	10	3	10
38	愛媛県	7	60	39	519	13	166	14	219	11	285	11	209	17	210	14	237	13	150	11	133	6	175	6	155	5	145	7	132
39	高知県	8	33	29	96	34	99	60	197	21	52	26	68	17	68	16	72	17	58	10	43	14	45	16	53	14	84	12	51
40	福岡県	4	29	11	36	11	63	14	56	21	104	19	84	16	66	14	60	17	77	17	61	21	82	24	84	22	76	19	70
41	佐賀県	0	0	33	123	32	110	33	124	37	120	37	112	26	82	17	57	10	43	15	56	11	36	5	19	5	20	8	27
42	長崎県	0	0	7	16	9	15	5	10	4	10	5	12	6	13	4	12	6	16	8	25	7	73	7	34	4	12	6	187
43	熊本県	1	3	2	11	4	15	11	21	8	34	4	13	4	9	1	3	3	10	9	33	4	19	5	39	5	35	5	18
44	大分県	6	19	6	18	5	30	4	21	7	40	7	47	5	19	4	18	2	26	5	47	3	36	4	40	2	11	2	11
45	宮崎県	8	34	8	44	8	44	8	43	4	39	3	33	2	7	3	38	4	49	4	62	3	47	4	55	5	44	5	43
46	鹿児島県	0	0	12	41	15	70	14	77	9	59	10	55	2	7	3	8	7	14	4	8	4	13	2	11	3	12	3	5
47	沖縄県	2	4	13	34	12	33	11	54	6	33	7	34	7	38	8	32	8	36	10	63	6	34	8	43	10	47	8	42
合計		547	2,545	1,031	5,018	978	4,923	937	5,473	997	6,241	1,039	5,683	956	5,909	940	5,660	959	5,581	882	5,397	836	5,544	818	5,842	785	5,270	816	6,124
実団体数		531		1,000		944		917		997		1,011		913		909		926		865		792		771		750		758	

2017全国水環境マップ

第14回 身近な水環境の全国一斉調査結果

凡例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上

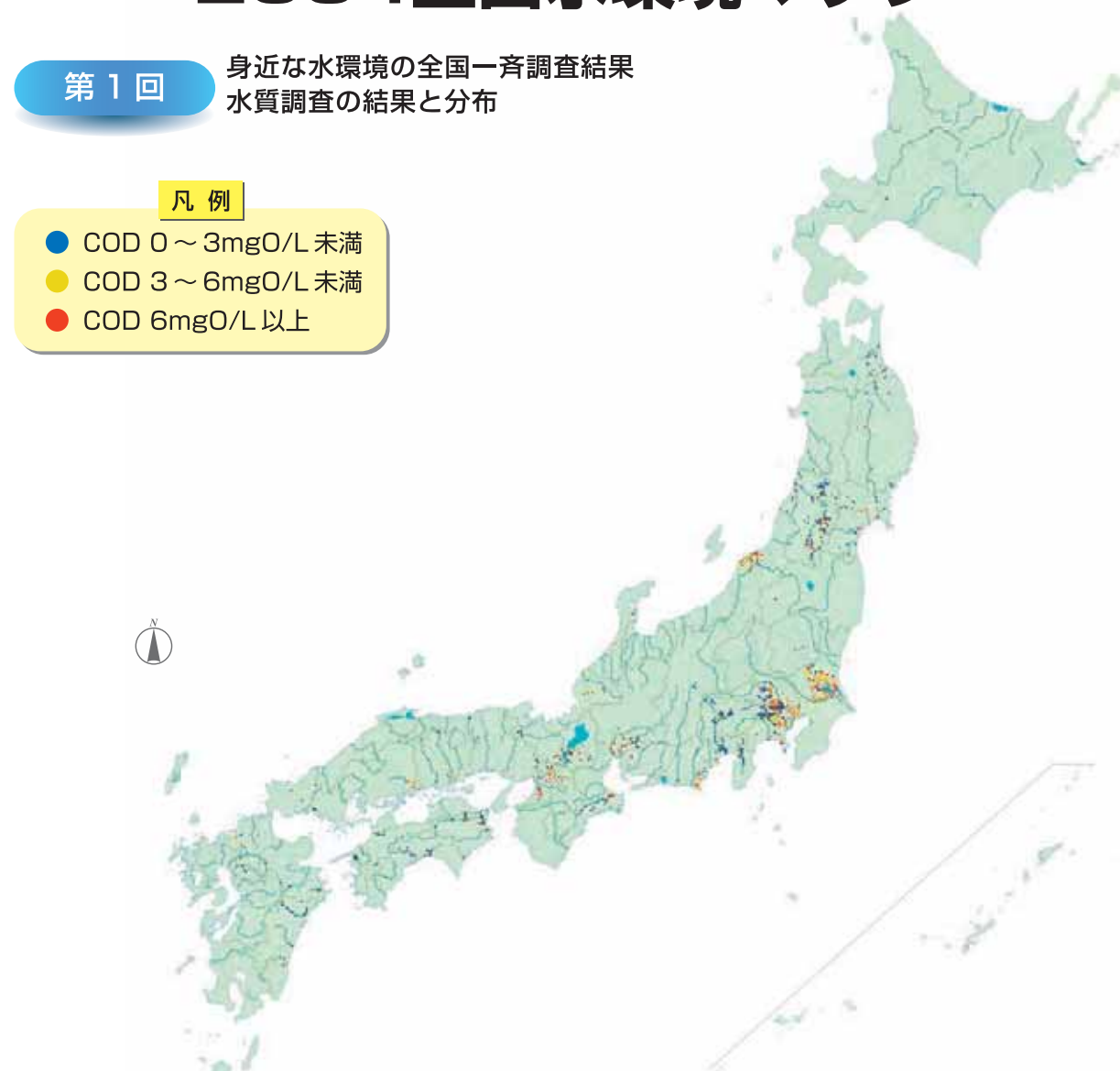


2004全国水環境マップ

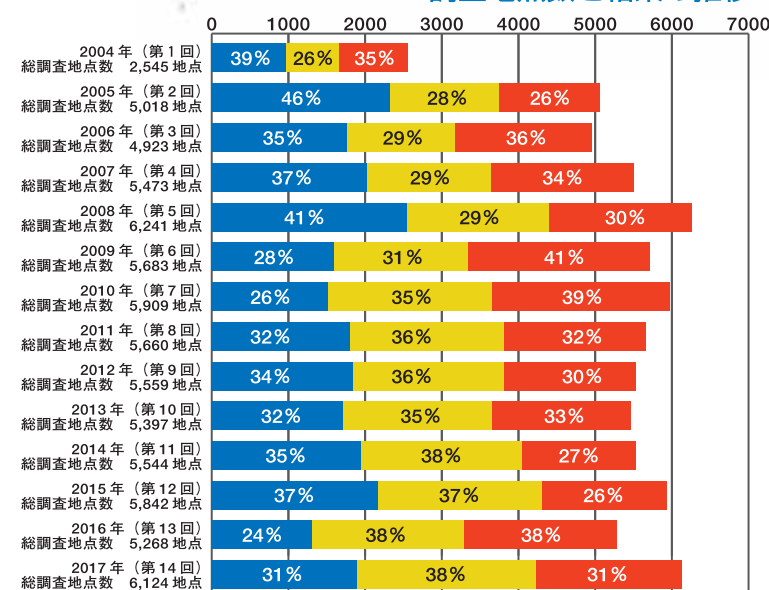
第1回 身近な水環境の全国一斉調査結果
水質調査の結果と分布

凡例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上



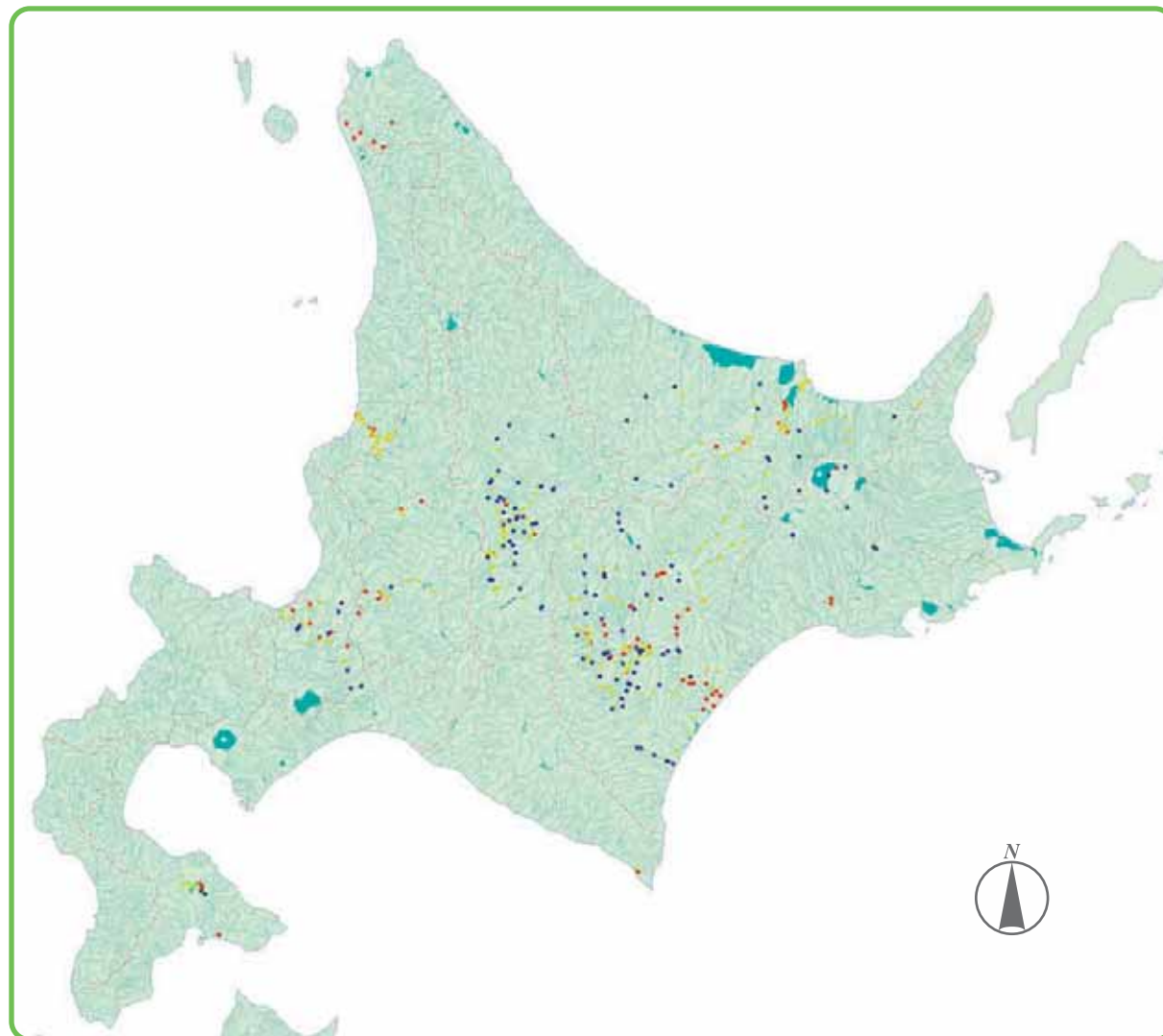
調査地点数と結果の推移



- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上

IV 各ブロックでの調査結果

北海道地方

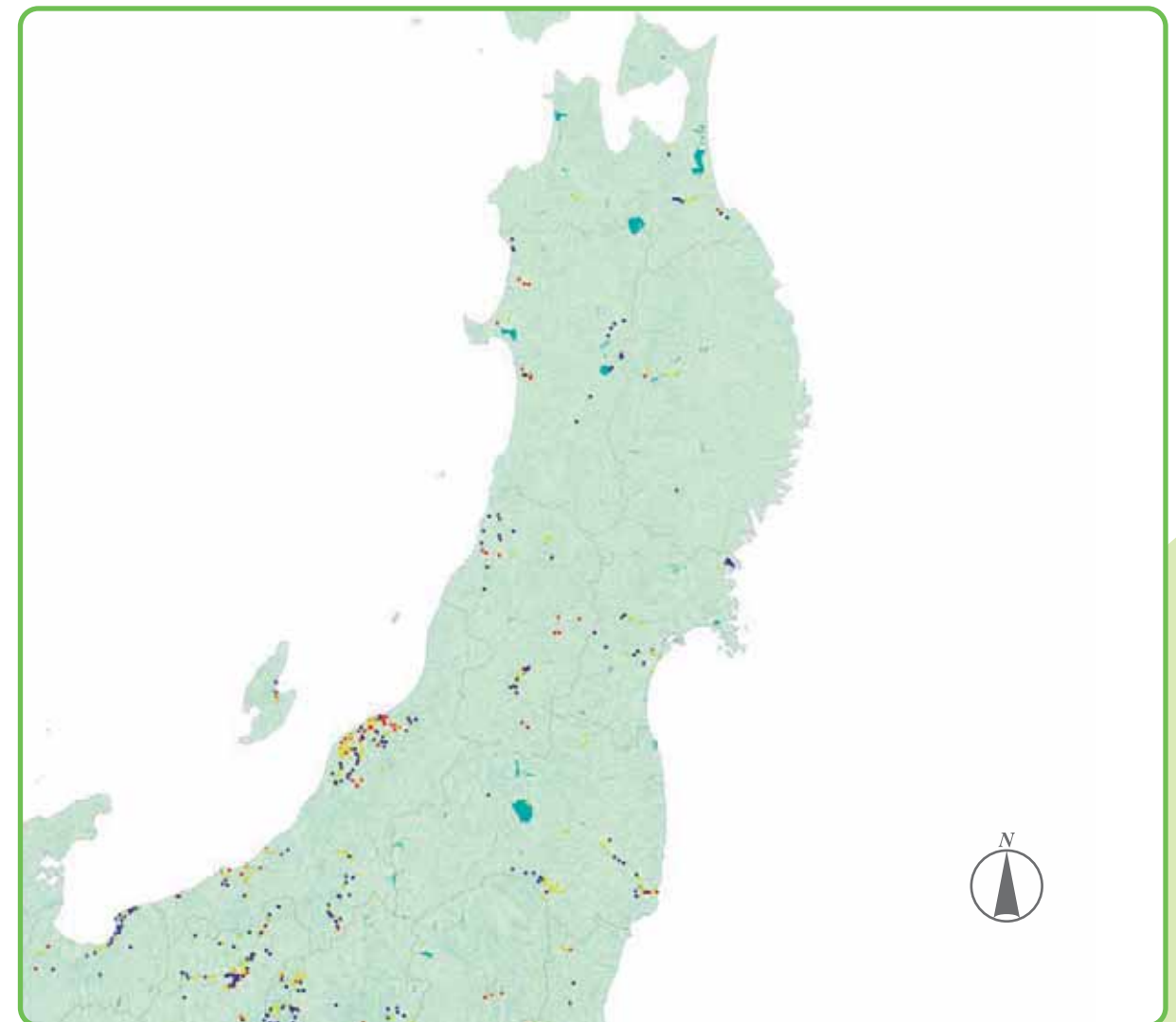


参加者からのコメント

- ・ 前日から小雨が降り続き少しの濁りと水量が多い。例年ごみ投棄が多い地点であるが、今年は無かった。
- ・ 昨年の豪雨災害で河川改修工事が行われており、川の流れが単調となり浅くなった。水質への影響はないと思われる。
- ・ H28.8の台風出水で左岸樹林が消失、右岸は疎らになった。水草も減少。
- ・ バイカモが減少していた。昨年度の出水の影響かまたは農業用水くみ上げのため除去されたか？農業用水くみ上げ用に、横断方向帯状に伐採されていた。



東北地方



- 凡 例
- COD 0～3mgO/L 未満
 - COD 3～6mgO/L 未満
 - COD 6mgO/L 以上

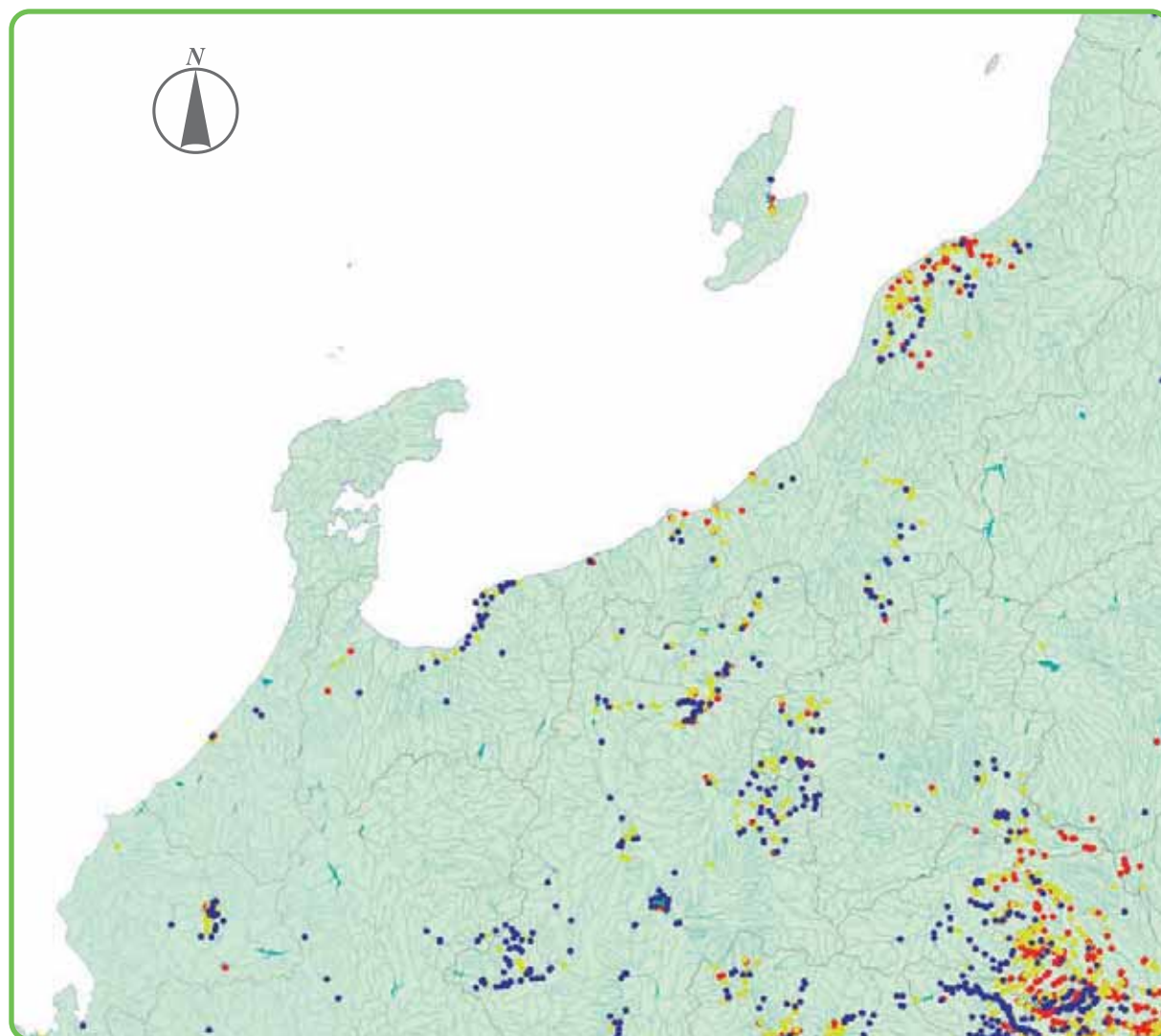
参加者からのコメント

- ・ 調査地点周辺はごみが多い。田植えのため川の水は少ない。
- ・ 東日本大震災後、堤防工事が進行中。日和山周辺の養魚場も埋め立てられました。そのためアシ林がなくなりました。干潟ではカニが隠れているような穴が無数にありました。
- ・ 広い氾濫原の中に、結構広範囲に階段が設置され、親水公園風のせせらぎ広場には市民も良く訪れ、ごみ拾いや稚魚放流の場所にもなっている。



IV 各ブロックでの調査結果

北陸地方

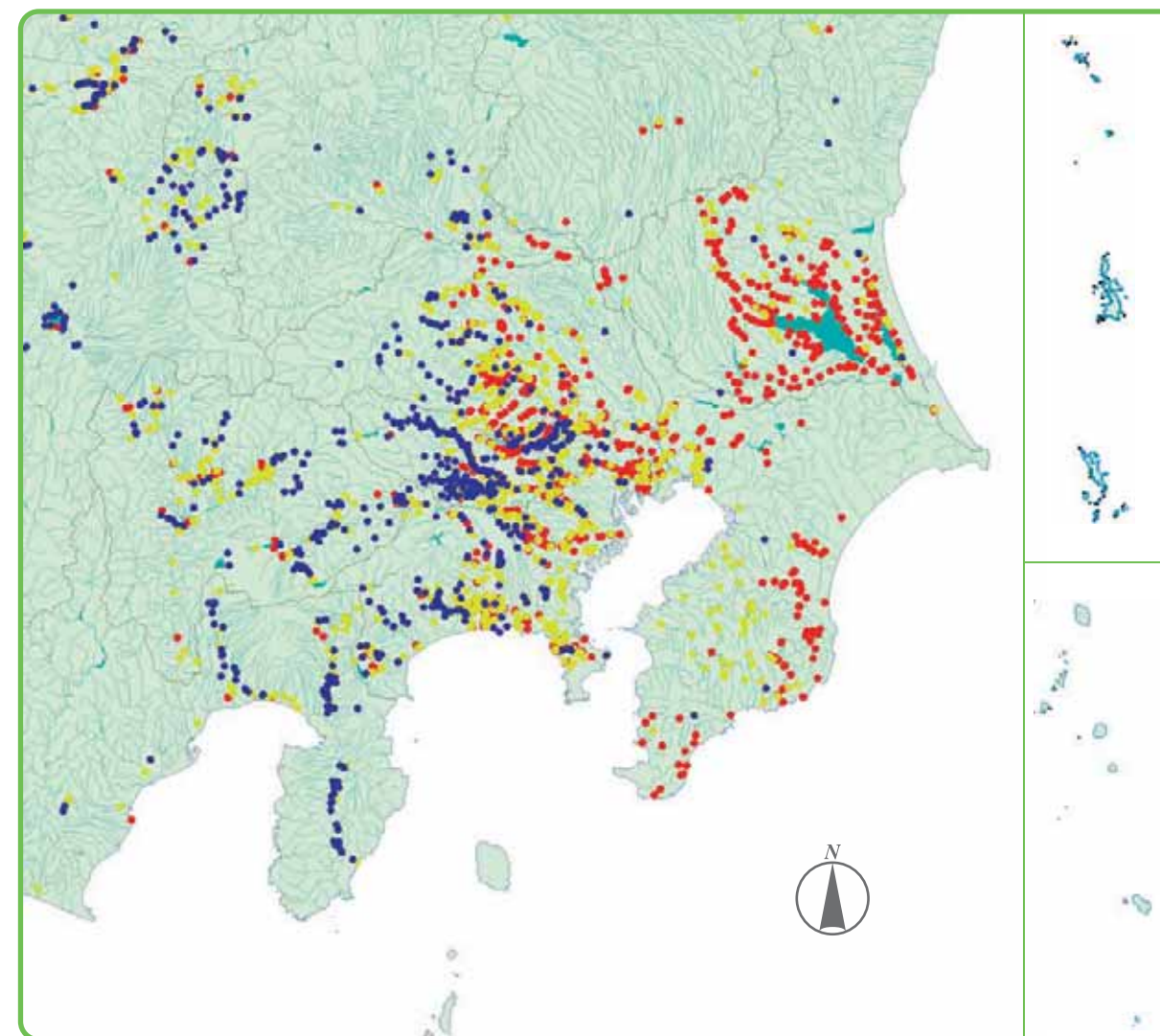


参加者からのコメント

- ・ 地元の中学生や新潟漁連の漁師が植樹、間伐を最近実施されていてよい傾向がみられると思います。
- ・ 例年より山の積雪が多かったため雪解け水によって川の水量は多めである。水は澄んできれいである。
- ・ ため池の入り口に多くのごみが散乱している。
- ・ 橋げた等に流木が多くなり、流れに変化もあるように感じる。ウの数が増えた。川原の大木が枯渇。中州にも変化あり。



関東地方



- 凡 例
- COD 0～3mgO/L 未満
 - COD 3～6mgO/L 未満
 - COD 6mgO/L 以上

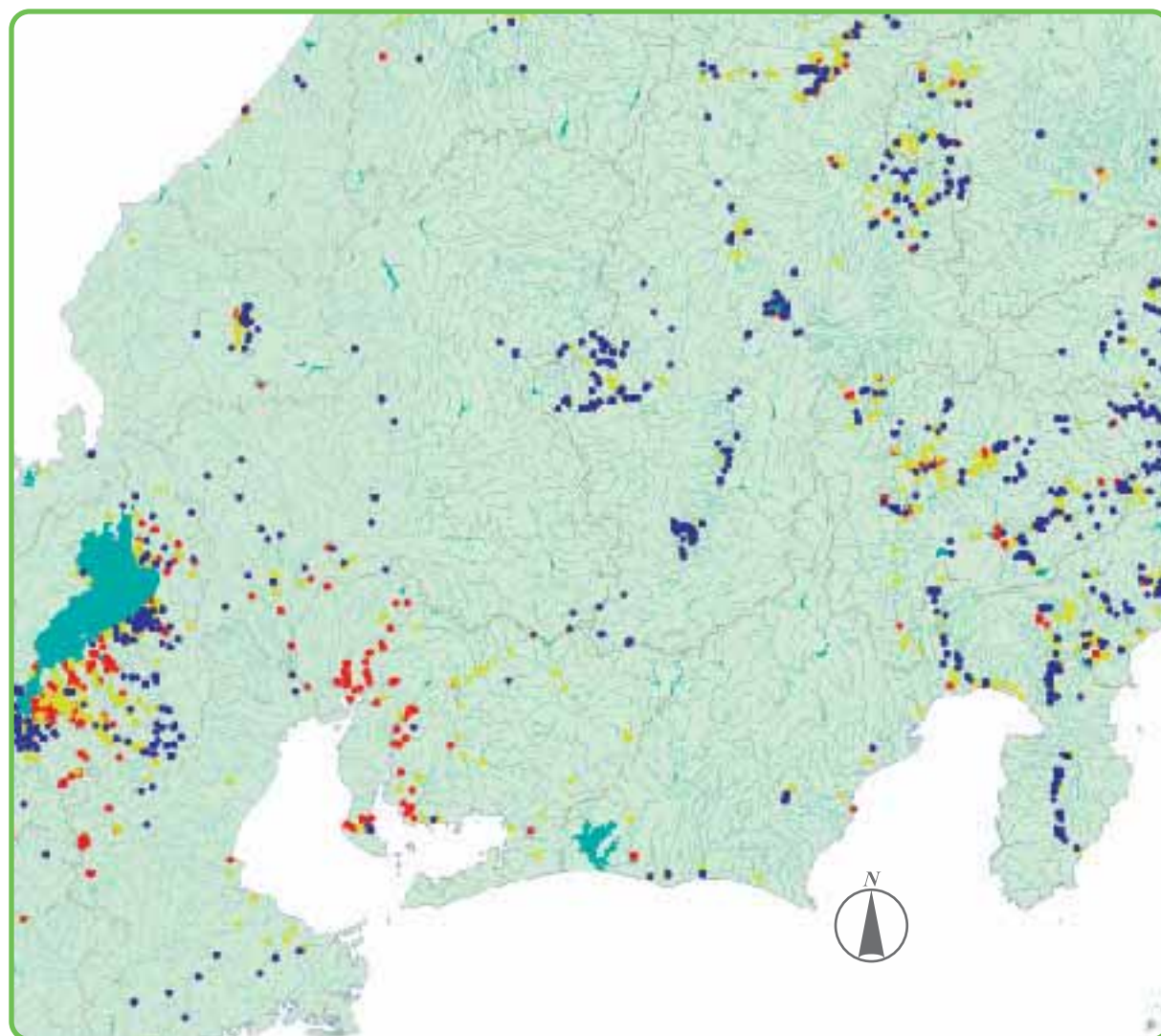
参加者からのコメント

- ・ 10数年前までは市内で一番汚れた川だったが、食品加工業者などが浄化槽をつけてからきれいになった。湧水も入るため水温も低い。
- ・ 昨年8月22日の台風9号の時に調査河川が氾濫してしまいました。ところどころ災害のつめ跡が残り、護岸工事も行われているところもあり、場所によっては水が全く流れていませんでした。
- ・ 1971年BOD 90最高で、1987年BOD31、1989年BOD20、2000年BOD5、その後データがなく、最近きれいになったと多くの市民から声をかけられます。
- ・ ここ何年か水量が減少しているが、今年は特に水量が減少して採水が大変でした。



IV 各ブロックでの調査結果

中部地方



参加者からのコメント

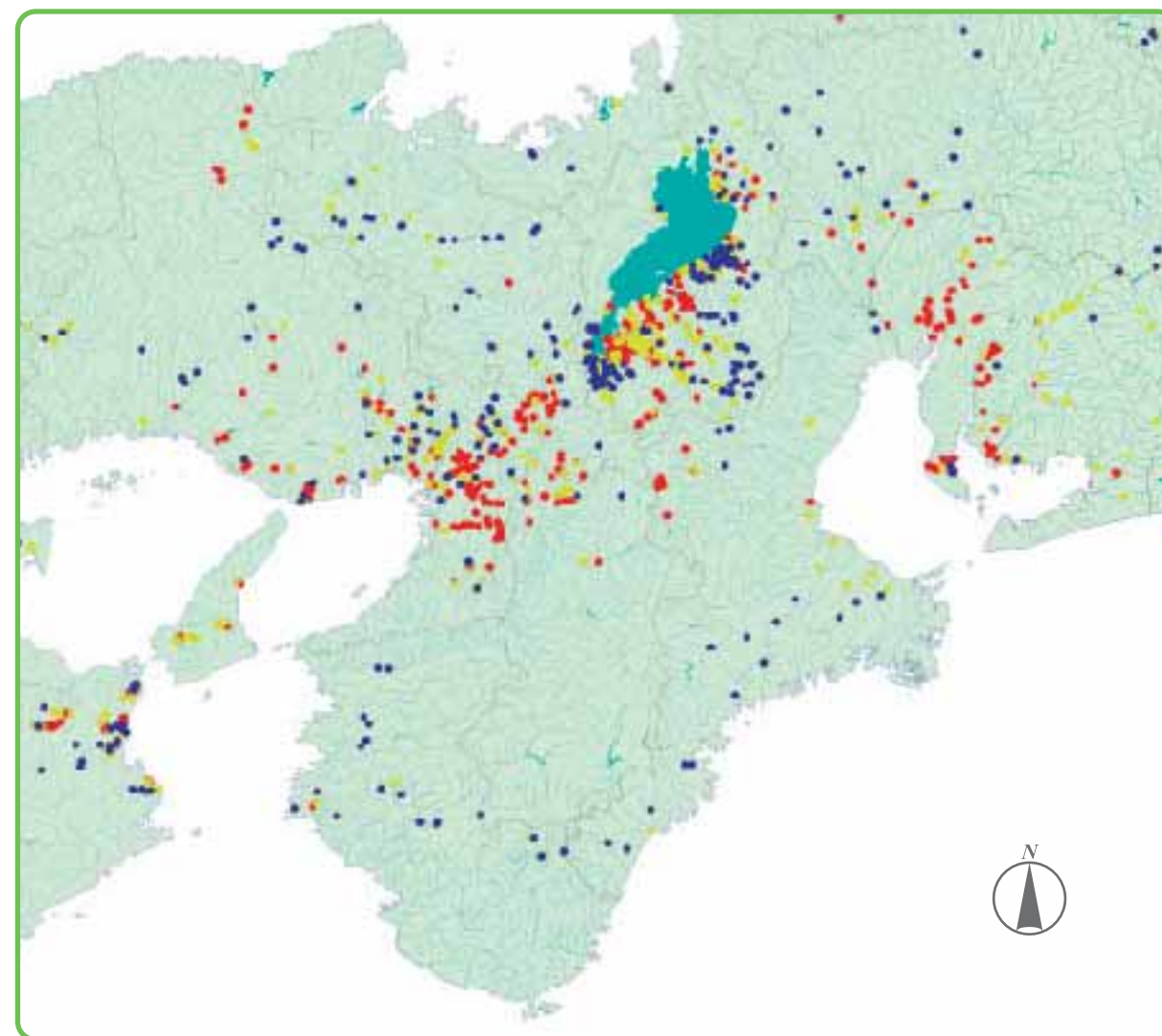
- ・ 前回より水量多いようですが近所の方の話だと普段と変わらないということでした。少し濁っているようにも思います。
- ・ 河床、水底の礫はアユハミあとあり。珪藻類中心。土砂は沈積なし。きれいな表面。右岸側に砂がたまり、陸化している。
- ・ 河川敷の一部が川に沿って帯状に舗装された。
- ・ 水量安定している。上流、下流方面に変化特になし。横断方向はやや変化した。土砂が溜まっている。川は変化なし。こいのぼりのある風景。



近畿地方

凡 例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上



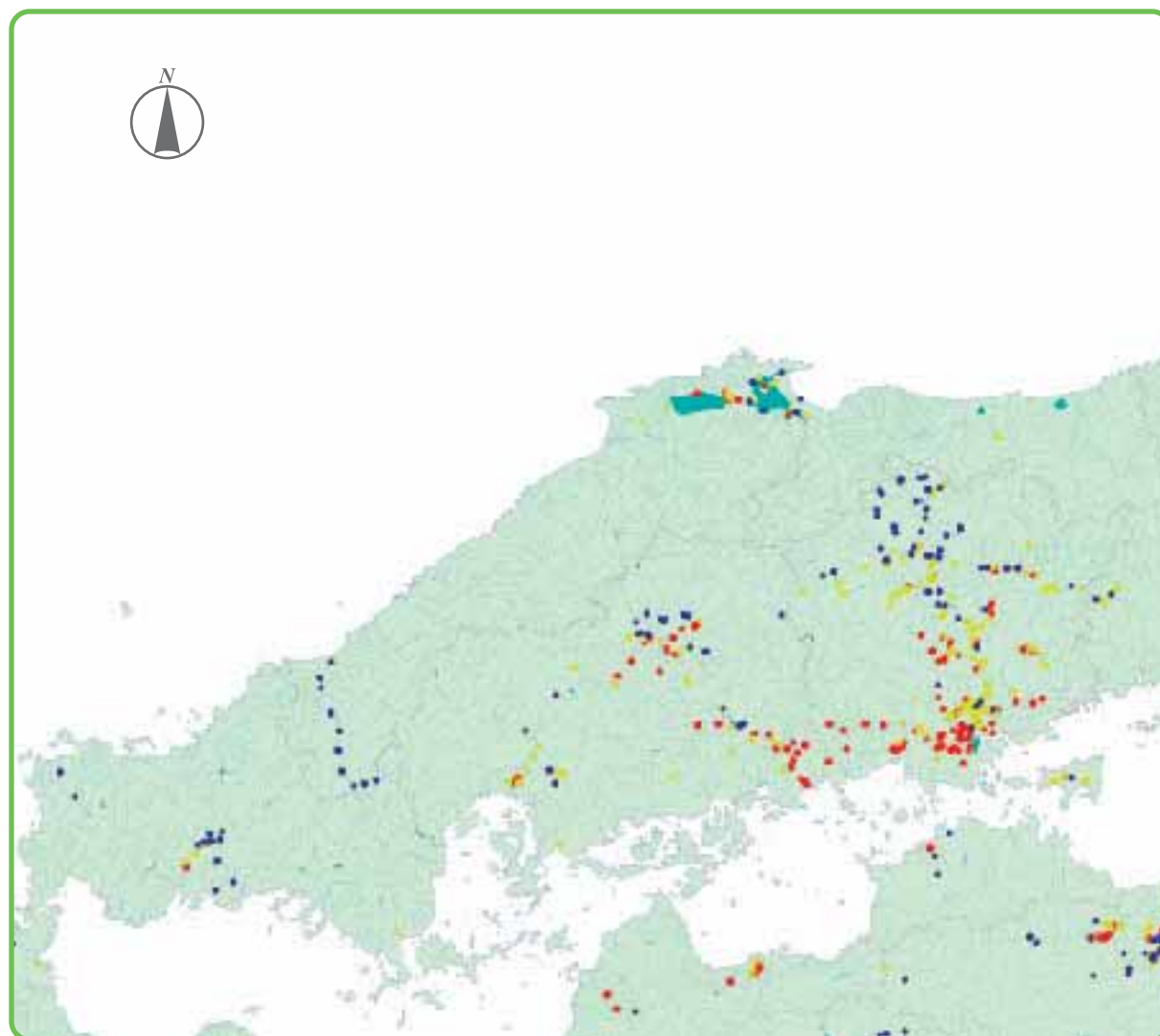
参加者からのコメント

- ・ 昨年よりも川の状況は良好だが水の濁りはややある。
- ・ 河川改修のためきれいになったが、この時期（田植えあと）は泥色の水となる。
- ・ 当日は前日の夜からの雨で川の濁りが心配されたが、増水もなく、濁りも少なかったので測定を実施した。ゴミ等の散乱も少なかった。
- ・ 今回は護岸工事中だったので、水が堰き止められ溜まり水の調査となり、過去のデータと違ったように感じました。
- ・ 河川清掃などを実施しているため、ゴミ等は少なくなってきている。
- ・ 水のきれいなところに住むいきものもいるが、汚れたところにいるものもいる。生活排水などの影響もあるのではないかと考えられる。水不足も考えられる。



IV 各ブロックでの調査結果

中国地方

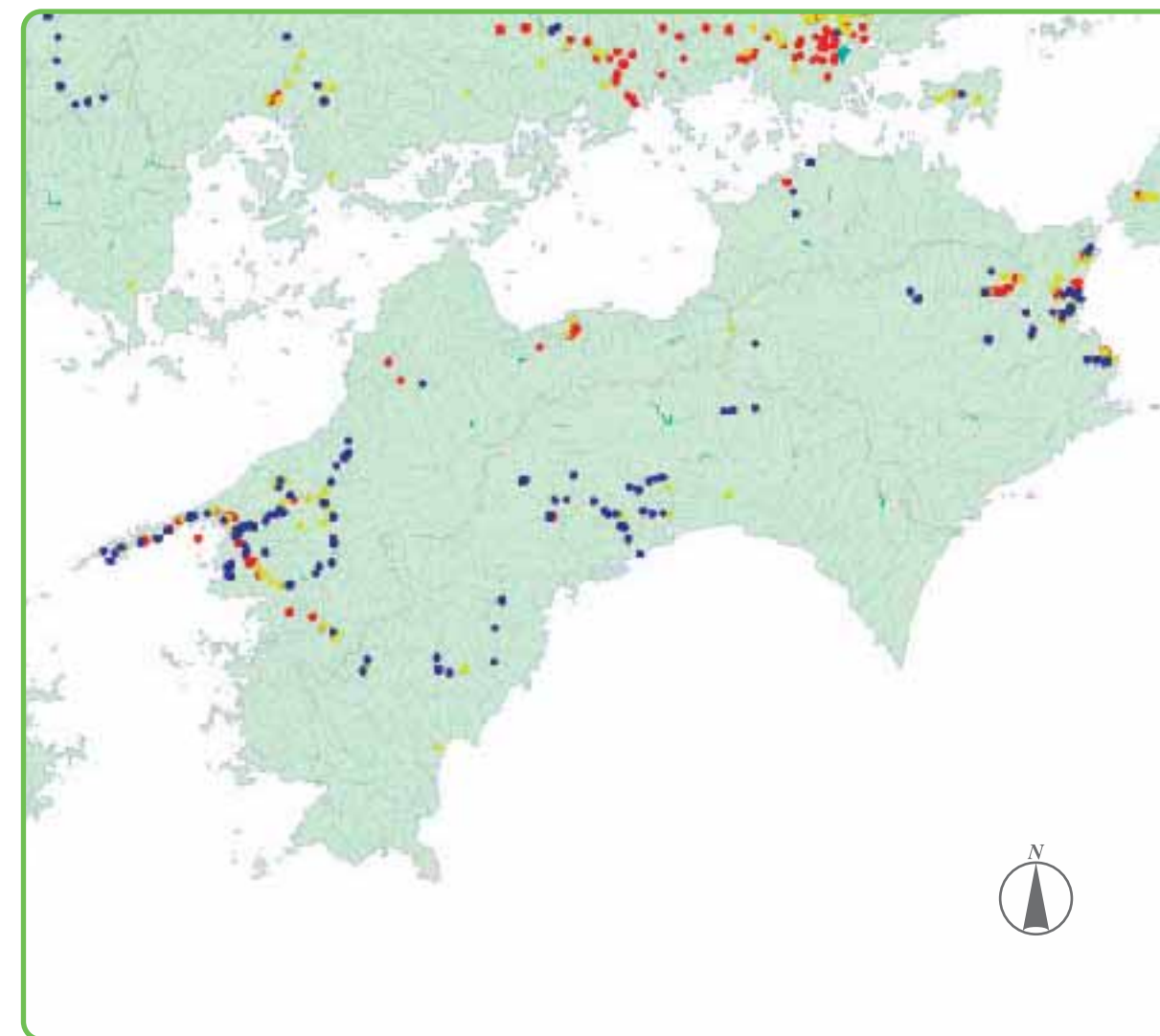


参加者からのコメント

- ・いつもより水量が少なく感じた。
- ・水は少し濁っているため水中は見えなかった。昨年と同じ場所を測定したが大きな変化はなかった。
- ・水鳥が生息しており、観察をして楽しんでいる人がいます。
- ・昔は石積み護岸だった。昭和のころにはホタルが生息していた。
- ・去年と比べて水量が少なく濁りが気になりました。



四国地方



凡 例

- COD 0～3mgO/L 未満
- COD 3～6mgO/L 未満
- COD 6mgO/L 以上

参加者からのコメント

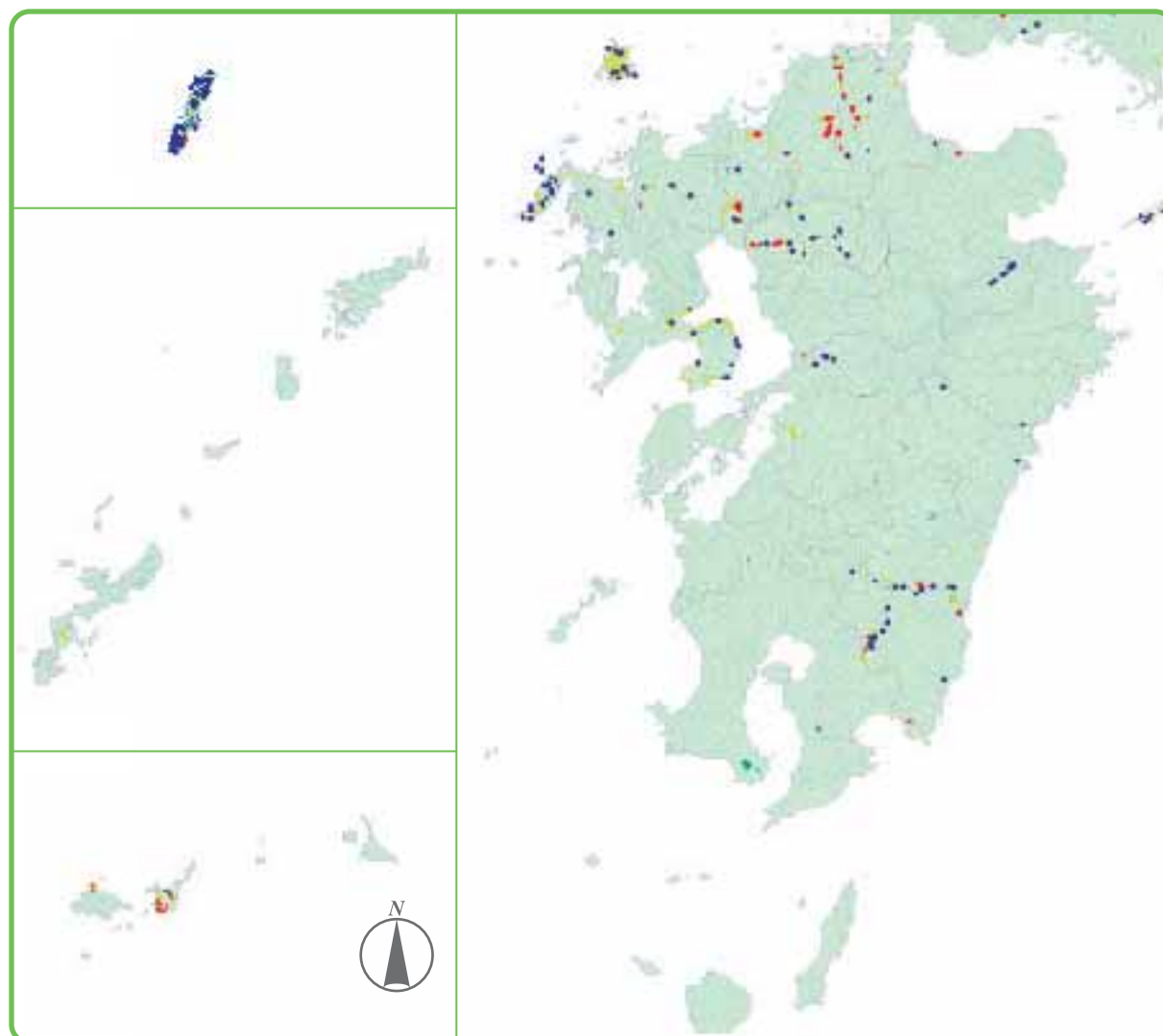
- ・上流からの川の流れはなく、すぐ上流まで濁水。測定点のすぐ15mと5m上流に2本の生活排水流入しており、この水を測定しているように思いました。川底のヘドロが目立つようになり、悪臭を放ってきた。
- ・雑木の山あいのやや川幅の広がった谷川。せせらぎが川の手で響いている。下手は淵になって穏やか。
- ・ごみ類はほとんどなく、水量は多い。にごりは見られなかった。
- ・いつもの上流からの流れはなく川の石は完全に干上がっている、横からの別経路の流入のみが流れを維持して、水中にはカワナなどの巻貝、水面にはアメンボが沢山見られる。



Ⅳ 各ブロックでの調査結果

九州・沖縄地方

凡 例 ● COD 0～3mgO/L 未満
● COD 3～6mgO/L 未満
● COD 6mgO/L 以上



参加者からのコメント

- ・せっかく整備されていますが、あまり水辺に近づく人を見かけません。もったいない・・・。行事にもっと利用を考えたい。
- ・潮は引いている。見た目はきれい。川上に向かって流れがある。おだやか。ごみはない。
- ・人工的な水辺、いやな臭い、触りたくない。
- ・水が冷たい、触っていたい、自然の心地良い香り。
- ・生活排水も流れているため昔から数値が高いということは何も改善されていないということになる。10秒で8になった。



Ⅴ 一斉調査結果の活用事例紹介

活用事例

積水化成品グループで取り組む「身近な水環境の全国一斉調査」

積水化成品工業株式会社

連絡先 経営戦略本部 コーポレート企画センター
C S R ・広報部（大阪） 柳瀬 公明
TEL：06-6365-3016 FAX：06-6365-3017
<http://www.sekisuiplastics.co.jp/>

当社グループは「第10回身近な水環境の全国一斉調査」に参加して以来、今回で5年目になります。
当社は、発泡プラスチックを基盤として顧客から信頼されるプラスチック・ソリューション・カンパニーを目指している会社です。

私達は、C S Rビジョン「人と環境を大切に 夢をふくらませる積水化成品グループ」を策定し、2011年よりグリーンカーテン、グリーンウェイブなどの環境活動をグループ会社全体で始めました。そのような折に、未来ファンドおうみを運営されている滋賀県の公益財団法人淡海文化振興財団様よりこの活動をご紹介いただき、市民団体が中心となった全国規模の水質調査活動があることを知り、ぜひ参加したいと思いました。

当社グループは、事業所を北海道から沖縄まで日本全国に展開しているので、グループ全体で一斉活動とすれば、環境教育と啓蒙ができるだけでなく、グループ全体の一体感を共有できると考えました。

実際に活動を始めてみて、社員とその家族が身近な河川の水環境の現状や保全の取組みに関心をもってもらうことができました。そして自然に触れることで自然環境の大切さもあらためて感じてもらえC S R活動の啓蒙にも役立っています。

他のグループ一斉活動としてグリーンカーテンやグリーンウェイブの活動を行っていますが、事務局としては色々と工数がかかり日々悩んでおります。しかし、この「身近な水環境の全国一斉調査」は、みずとみどり研究会事務局様に、お忙しい中色々ご支援をいただいております、事務局と致しましては大変有り難く思っております。

今年度の調査では、グループ会社18社、33事業所が参加し、36地点の河川を調査致しました。活動結果は、当社のイントラネット等でも紹介して啓蒙活動に役立てています。

今後は未参加の2社の参加を促して真の全グループ会社一斉活動とし、継続させていきたいと思っております。関係者の皆さま、何卒宜しくお願い申し上げます。

末筆になりましたが、いつも親切にご指導・ご支援をいただいております、みずとみどり研究会事務局様にあらためて厚く御礼申し上げます。



活用事例

1000 地点越えを目指して全国各地を調査した
「第 14 回身近な水環境全国一斉調査」

法政大学水文地理学研究室 浅見和希

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1 TEL:03-3264-9456
E-mail: info@hosei89.com http://www.hosei89.com/

「法政大学水文地理学研究室」では、現役の学生のみならず OB・OG にも声をかけて、毎年「身近な水環境全国一斉調査」へ積極的に参加しています。近年は一層力を入れて取り組んでいます。毎年、全国の調査結果を見たときに、調査が密に行なわれている地域がある一方で、ほとんど調査が行われていない空白域があるのが気になっていました。そこで、今回の第 14 回身近な水環境全国一斉調査で、当研究室では、調査があまり実施されていない空白地域を埋めつつ、1,000 地点調査することを目標に掲げ、OB・OG の方々にも協力を仰いで、北は北海道から南は九州まで全国各地で調査を行いました。最終的に調査地点数は目標としていた 1,000 地点を大きく突破し、計 1,400 地点越えを果たしました。特に九州地方などの西日本と北海道では 1 週間に及ぶ調査を行なったので、ここではその中での印象等を示させていただきます。

西日本への大遠征調査では、東京を出発して中国地方から始め、九州地方の対馬・壱岐などの離島、それから平戸、島原半島に行き、その後は四国地方、淡路島そして紀伊半島を経て帰京しました。対馬や壱岐などの離島の水は大体きれいで、COD の低い所が圧倒的に多かったものの、生活排水や農業排水等が流入する所では高い値となり、特に対馬には COD が 8 以上の地点もあって、どこでも汚染の可能性あることを強く認識しました。淡路島も印象的で、現地では肥料のにおいが鼻につき、予想通り COD が高い傾向にありました。時期によって違う可能性も考慮しなければなりませんが、各地域の特徴は把握できたのではないかと思います。

北海道の調査は十勝川流域、石狩川流域、さらには網走川など幅広い地域で実施しました。北海道と聞くと、広大な自然が広がり、COD があまり高くない印象があり、実際、北海道の河川は規模が大きく、COD も低い傾向にありましたが、周辺に農地が広がっている小さい河川で特に COD が高い傾向にあり、このように細かく見ると、各地に水の汚染の原因となるものがあることが分かりました。

第 15 回目の節目となる来年の全国一斉調査では、地点数を増やすだけでなく、いろんな工夫をして、より意義のある調査にしたいと思います。

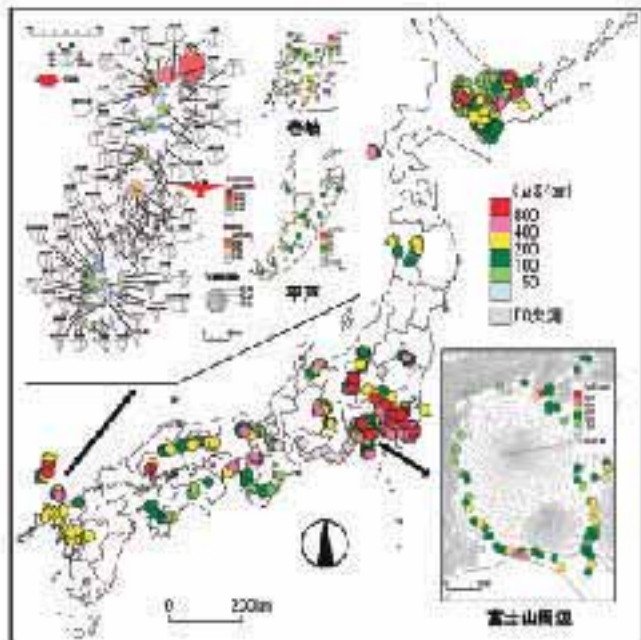


図 1 調査地点の EC と水質バランス (対馬)

コラム

(株) 共立理化学研究所

ごあいさつ

毎年 6 月 5 日は「環境の日」(国内)・「世界環境デー」(海外)として設定された環境保全に関わる重要な日です。

その 6 月 5 日に近い日曜日に、全国で開催される「身近な水環境の全国一斉調査」では、弊社製造の水質の簡易分析製品が調査キットとして使われ、第 1 回目から 10 年以上にわたりみなさまにお使いいただいています。

調査キットに付属の測定器具は、チューブの中に 1 回分の試薬が封入された「バックテスト」と呼ばれるもので、試薬調合から仕上げの袋詰めまでのほとんどが、手作業で行われています。



調査キット

バックテストができるまで

①試薬を調合する

検水と反応してすぐに測定値が得られるよう、弊社独自の技術で調合された粉末試薬。粒子の大きさや性質の異なる何種類もの試薬を全て人の手によって混ぜています。調合時の環境条件や原材料のわずかな変化を見逃さずに全てを均一に混ぜるには、機械ではなく人の目による判断と長年の経験がないと作ることができません。

バックテストには環境に負荷をかけることなく、みなさんが安心して使えるように工夫が施されています。



試薬の調合

②試薬をチューブに詰めてラインと一緒に封をする

ラインと一緒に封をすることで、ラインを抜き取ってできた穴から簡単に水を吸い込むことができます。

③銀色ラミネート袋にチューブを入れる

大敵である湿気や直射日光から、銀色のラミネート袋がバックテストチューブを守ります。

④バックテストのチェックを行う

作業工程が終わるたびに必ず人の目による厳重なチェックが行われています。試薬の量は？ラインは？チューブの刻印は？ラミネート袋に穴は？などなど。全てのチェックを合格してはじめて、バックテストが完成するのです。



検品作業

まとめ

長さ 7 センチと小さいバックテストの中には、誰でもどこでも簡単に水質調査ができるよう、たくさんの工夫と人の手や目による作業で作られています。

河川の汚れや結果だけではなく、使われているキットにも注目すると新しい発見があるかもしれませんね。

誰でも、どこでもできる 水質の簡易分析製品

河川・湖沼のモニタリングに！

**COD, アンモニウム, 亜硝酸, 硝酸, リン酸,
溶存酸素, 透視度 など**



株式会社 共立理化学研究所
KYORITSU CHEMICAL-CHECK Lab., Corp.

http://kyoritsu-lab.co.jp [バックテスト 検索](#)
kyoritsu@kyoritsu-lab.co.jp TEL:03-3721-9207
〒145-0071 東京都大田区田園調布 5-37-11 FAX:03-3721-0666

VI

継続調査参加団体

皆勤賞

14年参加(結果提出)団体 (合計93団体) 個人参加1名を含む

北海道	NPO法人十勝多自然ネット	茨城県	阿見町	東京都	日野市環境共生部 緑と清流課	神奈川県	鶴見川・水質チーム
宮城県	NPO法人宮城県河川環境研究会	茨城県	桜川市	東京都	八王子市東南部環境市民会議	新潟県	NPO法人新潟水辺の会
山形県	美しい山形・最上川フォーラム	茨城県	土浦市	東京都	程久保川を考える会	福井県	大野の水環境ネットワーク
茨城県	一般社団法人 霞ヶ浦市民協会	埼玉県	新河岸川水系水環境連絡会	東京都	八王子市北部環境保全推進地区市民議	山梨県	Yamanashiみずネット
茨城県	土岡市	埼玉県	環境を考える市民の会・むさし村山	東京都	グループひの消連	山梨県	大泉・水と緑を守る会
茨城県	牛久市	東京都	東久留米ホテルを呼ぶもどす会	東京都	八王子西南部環境市民会議	山梨県	風間・瀬澤グループ
茨城県	つくば市	埼玉県	新座の自然と暮らしを守る市民の会	東京都	東京都山岳連盟自然保護委員会	山梨県	メダカクラブ
茨城県	鹿嶋市	埼玉県	和光自然環境を守る会	東京都	東京NPO-21研究所	長野県	諏訪湖クラブ
茨城県	かすみがうら市	東京都	川つくり清瀬の会	東京都	エコネット町田	岐阜県	NPO法人長良川環境レンジャー協会
茨城県	茨城町	埼玉県	生活クラブ生協所沢南支部	東京都	はむら水と緑の会	静岡県	三島ゆうすい会
茨城県	小美玉市	埼玉県	NPO法人 エンシティ志木	東京都	環境・国際研究会	愛知県	庄内川松並木つくり隊
茨城県	笠間市	埼玉県	地域の自然を考える会	東京都	玉川上水ネット	愛知県	大山川を愛する市民の会
茨城県	鉾田市	東京都	白子川源流・水辺の会	東京都	府中かんきょう市民の会	滋賀県	認定NPO法人びわこ豊稜の郷
茨城県	神栖市	埼玉県	生活クラブ生協所沢東支部	東京都	あおばく・川を楽しむ会	京都府	相楽環境委員会
茨城県	行方市	埼玉県	埼玉西部・土と水と空気を守る会	東京都	AMR	大阪府	公益財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構
茨城県	美浦村	東京都	西東京生活者ネットワーク	東京都	東京環境工科専門学校 増穂班	岡山県	旭川流域ネットワーク
茨城県	河内町	東京都	自由学園	東京都	NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラム	山口県	山口市立白石中学校
茨城県	利根町	東京都	明法中学高等学校 科学部	東京都	足立区荒川ビジターセンター	徳島県	地蔵橋駅前町内会環境委員会
茨城県	国土交通省 霞ヶ浦河川事務所	埼玉県	東川を愛する会	東京都	林・宮島ファミリーズ	徳島県	徳島市市民環境部環境保全課
茨城県	龍ヶ崎市	埼玉県	NPO法人 荒川流域ネットワーク	東京都	いたばし野鳥クラブ	徳島県	ガールスカウト徳島第9団
茨城県	潮来市	東京都	浅川流域市民フォーラム	東京都	北区水辺の会	徳島県	ガールスカウト徳島第7団
茨城県	稲敷市	東京都	八王子ランドマーク研究会	東京都	国分寺みずっこクラブ	高知県	NPO法人仁淀川お宝探偵団
茨城県	筑西市	東京都	八王子中央地区環境市民会議	神奈川県	東京都大学 小堀・成研究室	沖縄県	リュウキュウアユを蘇生させる会

※個人の参加者は49名

VII

全国水環境マップ
実行委員会名簿

この全国水環境一斉調査を実施するにあたり、全国各地の方々からなる「全国水環境マップ実行委員会」を2004年に設置しました。

実行委員

氏 名	役 割	団 体 名	都道府県	T E L	E - mail
小倉 紀雄	実行委員長	みずとみどり研究会	東京都	042-327-3169	mizutomidoriken@ybb.ne.jp
野村 直也	実行委員	NPO 法人十勝多自然ネット	北海道	0155-22-7511	nomura_n@arc-corporation.co.jp
金子 博	実行委員	NPO 法人パートナーシップオフィス	山形県	0234-26-2381	npo-po@nifty.com
沼澤 篤	実行委員	一般社団法人霞ヶ浦市民協会	茨城県	029-821-0552	kca@cg.mbn.or.jp
渡邉 勇	実行委員	NPO 法人荒川流域ネットワーク	埼玉県	0428-31-7978	nabe0133@t-net.ne.jp
大野 和広	実行委員	新河岸川水系水環境連絡会	埼玉県	048-466-0916	shingashi@freeml.com
小寺 浩二	実行委員	NPO 法人地域環境科学研究会	東京都	090-7253-7380	kodera@hosei89.com
諏訪 祥子	実行委員	浅川流域市民フォーラム	東京都	042-621-1779	CBB00853@nifty.com
今村 和志	実行委員	NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラム	東京都	03-3654-7240	renraku@cleanaid.jp
風間ふたば	実行委員	Yamanashi みずネット	山梨県	055-220-8193	kagerou@ymizunet.org
沖野外輝夫	実行委員	諏訪湖クラブ	長野県	0266-58-0490	okinosw@po2.lcv.ne.jp
金崎いよ子	実行委員	認定 NPO 法人びわこ豊稜の郷	滋賀県	077-583-8686	houjyounosato@lake-biwa.net
山崎 久勝	実行委員	NPO 法人蒲生野考現倶楽部	滋賀県	090-7240-4675	
藤岡 博	実行委員	公益財団法人琵琶湖・淀川水質保全機構	大阪府	06-6920-3035	hozenkiko@byq.or.jp
竹原 和夫	実行委員	旭川流域ネットワーク	岡山県	090-1181-1090	okakawa2@yahoo.co.jp
生野 宣宏	実行委員	NPO 法人仁淀川お宝探偵団	高知県	090-7578-6172	ngckk745@ybb.ne.jp
杉尾 哲	実行委員	NPO 法人大淀川流域ネットワーク	宮崎県	0985-78-2655	info@oyodo-river.org
小野 朋典	実行委員	リュウキュウアユを蘇生させる会	沖縄県	090-1341-1847	ryukyuayuono@gmail.com

※委員は、平成29年12月2日現在

事務局

氏 名
高橋 克彦
菅谷 輝美
本間 君枝
浅見 和希
佐山 公一

オブザーバー

氏 名
小堀 洋美
成 泳植
奥田 晃久
柗井 正将
青地 絢美
岡本誠一郎
岩井 聖
星野 順子
吉野 英夫
岡内 完治
岡内俊太郎
古内 覚
樋口 柚里
伊藤 奈未



身近な水環境を調べよう！

第15回「身近な水環境の全国一斉調査」参加のお誘い

次回調査の予定

2018年6月3日(日)を統一調査日として、第15回の全国一斉調査の実施を予定しています。
後日、今回ご参加いただいたみなさんに実施のご案内をお送りしますのでよろしくお願いいたします。

小倉 紀雄

全国水環境マップ実行委員会 実行委員長

日頃、親しんでいる身近な水環境は簡単な方法で調べることができます。

「身近な水環境の全国一斉調査」は市民グループと河川管理者などと連携し、毎年6月5日の「環境の日」に近い日曜日に実施しています。本調査は、統一した調査マニュアルと簡単なキット(無償で配布)を用い、全国で一斉に行います。

調査結果をわかりやすいマップとして表現することで、身近な水環境の様子が良くわかります。この調査を通して水環境に関する市民の理解と関心が、いっそう高まることも期待されます。

詳細な調査結果は、本調査専用ホームページ(URL <http://www.japan-mizumap.org/>)や国土交通省水管理・国土保全局のホームページ(http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyoku/research/index.html)で公表されています。

実 施 日 2018年6月3日(日) 世界環境デー(環境の日)の全国統一日を基本的に推奨。
測 定 項 目 気温、水温、COD、その他
測 定 方 法 調査マニュアル、調査キットに基づき測定(※1)
参加申込と締め切り 専用ホームページダウンロードまたはP.22の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、下記の連絡事務局(みずとみどり研究会)に、**2018年3月10日(土)**までにご送付下さい。
なお、ご記入いただいた個人情報は今回の調査に関する連絡以外に、ご本人の許可なく使用いたしません。
参加申込された団体はホームページで公表させていただきます。

事務局からのお願い

申込後、お手元に水質調査キット類が届きましたら、必ず内容をご確認ください。

※1 調査キットは、参加申込者に2018年5月頃に配布予定です。

問合せ先

○全国水環境マップ実行委員会 事務局
みずとみどり研究会気付(申込・問合せ)
〒185-0021 東京都国分寺市南町2-1-28 飯塚ビル202
TEL/FAX:042-327-3169 E-mail:mizutomidoriken@ybb.ne.jp


SEKISUI PLASTICS CO., LTD.
積水化成品
 プラスチックス・ソリューション・カンパニー



グローバルに顧客から信頼される
プラスチック・ソリューション・カンパニー

私たち積水化成品グループは、
経営理念の実践を通して
地球環境を含む
すべてのステークホルダーに対して
社会的責任を果たし、
グローバルに社会の持続的発展に
貢献します。

積水化成品グループでは「身近な水環境
の全国一斉調査」にも継続的に参加して
います。

積水化成品工業株式会社
 本 社：〒530-8565 大阪市北区西天満2-4-4 TEL 06-6365-3014
 東京本部：〒163-0727 東京都新宿区西新宿2-7-1 TEL 03-3347-9615
<http://www.sekisuiplastics.co.jp>



積水化成品サイト

全国一斉調査 お申し込み先

FAX：042-327-3169 E-mail：mizutomidoriken@ybb.ne.jp

第15回 身近な水環境の全国一斉調査 参加申し込み用紙

参加申し込み用紙はホームページ(<http://www.japan-mizumap.org/>)からもダウンロードできます。 [Q](#) [身近な水](#) [検索](#)

2018年3月10日(土)までに必ずE-mailまたはFAXでお知らせ下さい。

■ これまでに全国一斉調査に参加したことはありますか

☐ 過去の参加あり ☐ 初めて

■ 参加グループ名

以前の全国一斉調査に参加された方でグループ名の変更がある場合には昨年の登録名もお書き下さい。団体名が異なると経年データとして結果が反映されません。

参加グループ名(個人参加の場合は参加者氏名、ただし個人情報保護の関係で個人名の公表は致しません)

変更前のグループ名

■ 参加グループの連絡責任者 (個人参加の場合はご記入の必要はありません)

■ 連絡先 (グループの場合は連絡責任者の連絡先、個人の場合はご自宅など) 住所、電話、FAX、E-mail (特にE-mailアドレスははっきりとお書き下さい・携帯電話のE-mailは不可)

住 所：〒

電 話

FAX

E-mail

■ 調査予定地点名 河川名など 例) ○○県 ○○川、××用水路、△△池。

■ 河川以外の水路・水辺等で調査を実施しますか

河川以外の水路・水辺(農業用水路、ため池等)で行う調査地点がある場合には、原則として水路・水辺等の管理者や所有者の許可を得ることが必要となります。「はい」とお答えの方は別添「河川以外の調査了解調査票」にご記入の上、事務局に申し込み用紙と一緒に提出ください。(専用HP上の詳細マニュアルの注意事項を参照してください。)

☐ はい ☐ いいえ

■ 調査予定日 ただし、結果の返送締め切り日(6月末日)より前に実施してください。

☐ 6月3日に実施する ☐ 6月3日に実施できない【その場合の予定 月 日】

■ 調査予定地点数 水質調査キットの事前準備のため、必ずお書きください。

地 点 (水質調査キットの事前準備のため、必ずお書きください)

■ 参加申し込みの確認はホームページ(<http://www.japan-mizumap.org/>)でできます。

※調査の風景などの写真送付にご協力ください。お送りいただいた写真はパンフレットやホームページに使用させていただきます。

協賛企業等を募集しています

協賛いただいた企業、団体につきまして広告を結果概要パンフレットに掲載させていただきます。
当結果概要パンフレットは身近な水環境の全国一斉調査に参加した皆さまや関連団体などに毎年約6,000～7,000部配布しています。
詳しくは、全国水環境マップ実行委員会事務局までご連絡下さい。